

岐阜新聞真学塾

出題 蜚雪ゼミナール 大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

以下の文章は、王様に献上された「不死の薬」を飲んでしまい、そのことを咎められて、死刑を言い渡された門番が弁明した時のセリフです。あとの問いに答えましょう。

臣謁者に問ふに、謁者曰はく、『食らふべし』と。臣故に之を食らふ。①是れ臣は罪無くして、罪は謁者に在るなり。且つ客不死の薬を献ず。臣之を食らひて王臣を殺さば、是れ死薬なり。②是れ客の王を欺くなり。

※ 臣＝わたし(門番) 謁者＝献上された「不死の薬」を取り次いだ人 客＝不死の薬を献上した者

問1：下線部①について、このように主張するのはなぜですか。理由を答えなさい。

問2：下線部②について、なぜ「客」は王を欺くことになるのでしょうか。理由を答えなさい。

豆知識

雑学コラム

一日一日を大切に

今回は、漢文の「不死之薬」という逸話からの出題です。王様に献上された「不死の薬」を飲んでしまい、そのことを咎められて、死刑を言い渡された門番が弁明をしています。まず、門番は謁者が臣(＝門番)に「不死の薬」を食べていいと言ったから、食べたのであって、悪いのは「不死の薬」を食べることを許可した謁者だと主張します。また、不死の薬を飲んだ門番が死ぬことで、不死の薬が嘘であることが証明され、王様が不死の薬を献上した者に騙されたことになるかと主張します。そもそも、「不死の薬を飲んだ罪で門番を死刑にする」のは本末転倒ということですね。

さて、今回の話のように、古典には「不死の薬」にまつわるエピソードが多くあります。下呂には人魚の肉を食べたことで800年生きた「八百比丘尼」の伝説がありますが、このように「不死身になって長生きした」という話は少なく、「不死の薬」を手に入れられないという話がほとんどです。古代中国の秦の始皇帝は、不死の薬だと思って猛毒の水銀を飲み、それがもとで亡くなったと言われています。また、『竹取物語』の中では、かぐや姫から不死の薬を贈られた帝が、「かぐや姫がいなければ不死も意味がない」と言って、日本一高い山で不死の薬を焼き、そのことでその山を「不死の山」と呼び、「富士山」の名称の由来となったと書かれています。「不死の薬」の話には「永遠の命を手に入れるために努力するよりも、その日一日を大切に生きていこう」というメッセージが込められているんですね。

【解答】

①から②まで証明されるから。

問2：不死の薬を飲んだ門番が死ぬことで、不死の薬が嘘だったから。

問1：謁者が臣(＝門番)に「不死の薬」を食べていい